

令和8年度

事業名 公民館事業活性化研修会	
期 日 令和8年9月16日（水）	
参加者 74名	
趣 旨 公民館が地域コミュニティの基盤形成に寄与するため、「こどもの居場所」としての役割を担う意義について学び、公民館における地域のコミュニティ拠点機能の強化を図るとともに、今後の事業づくりの充実につなげる。	
活動の様子	
【説明】「本研修の趣旨について」	
社会教育総合センター調査・研修班社会教育主事 上野 光裕	
	令和6年度に文部科学省が実施した「社会教育調査」や、令和7年度に子ども家庭庁が示した「こどもの居場所づくりに関する指針」をもとに、全国の公民館の現状と課題を確認するとともに、全てのこども・若者が切れ目なく居場所を見つけることができるよう、社会全体でこどもの居場所になり得る場を積極的に設けていく必要性について説明しました。
【研修1】〈講話〉「求められる公民館の役割」	
国立大学法人鹿児島大学法文学部法経社会学科准教授 酒井 佑輔 氏	
	公民館の原点や固有の価値といった「不易」と、サードプレイス等の現代の「流行」の両面の観点から、これからの時代に求められる「こどもの居場所」としての公民館活用の意義についてお話いただきました。
	講話では、「日本社会の地域の実態として『孤立・孤独化』『分極化、排除と分断』が進んでいるが、社会教育を通じて人が学び育ち、つながり、地域がつくられるという事実やその価値が見直されている」として、その根拠となるデータや関連書籍も多く紹介いただきました。
	また、対話を重視したワークショップも随所に取り入れられ、和やかな雰囲気の中、「こどもの居場所としての公民館を活用するために大事なこと」について、各グループで活発な議論が行われました。
	参加者からは、「公民館活動が地域の問題・課題の解決に繋がるということが印象的でした」「今の時代だからこそ求められる公民館論がわかりました」「参考文献などもたくさん紹介していただき、これからも学び続けたいと思えました」「悩むよりまずは行動に移してみることが大切だなと改めて感じました」などの感想が寄せられました。

【研修2】〈実践発表〉「こどもの居場所としての活用

～サードプレイスってこういうこと?～

広島県福山市服部交流館主事 大元 佳世 氏



過疎化により地元の小学校が廃校となる中、地域を盛り上げるために立ち上げた「はっとりGENKIプロジェクト」の具体的な活動内容について発表いただきました。

子どもたちが企画段階からプロジェクトに参加し、様々な困難にぶつかりながらも、仲間や地域の方の協力を得ながら壁を乗り越え、企画運営を行っていく様子を画像や動画を交えて紹介していただきました。また、「ここちよいゆるさのある場づくり」として、子どもたちが活動終了後も地域とつながり続けられる仕組みについても説明され、プロジェクトを持続可能な取組にするためのノウハウについて語っていただきました。

参加者からは、「子どもの居場所や『つなぐ』ことの大切さを教えていただきました」「こどもにも役割が必要だと感じました」「企画・運営に携わることで自分ゴトとして捉えることができるということが印象的でした」との感想が寄せられました。

【研修3】〈演習〉「Let`s think!こどもの居場所づくり ～公民館の可能性～」

社会教育総合センター調査・研修班社会教育主事 上野 光裕



こども家庭庁が2023年に発表した「こども・若者の居場所づくりに関するこども・若者向け報告書」をもとに、自ら協議グループを選択し、「子どもたちが公民館を居場所と感じるための事業やしくみとは」のテーマのもとに活発な議論が行われました。

演習の後半では、グループで考えた事業やしくみを、『Who（誰が関わるか）』『How（どうすれば具現化できるのか）』『When（いつやるか）』の視点で深掘りするとともに、再度こどもの視点に立って事業やしくみを見直す活動を行いました。

参加者の声

- ・ 異業種の方と公民館の今後の未来について語り合えたことがとても有意義でした。
- ・ 目的をもったディスカッションができたので、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- ・ 自分たちで何かを生み出すという営みが、子ども・住民の参画意識を高め、それが居場所に繋がっていくんだなと考えました。
- ・ 色々な方の意見をお聞きし、具体的な事業案の参考になりました。
- ・ 子どもの視点に立って考えることの重要性を改めて再確認できました。
- ・ やりたいことと具現化、考え方のプロセスの参考になりました。